

ICT大型捕獲檻によるサルの被害防止対策(栃木県佐野市)

- 県の専門家派遣事業を活用し、サルの群数、個体数、生息状況を把握。生息状況を「MAP化」し、具体的な対策を「見える化」することにより、地域におけるサル対策の意識を醸成
- 生息状況調査に基づくICT大型捕獲檻の設置により、効率的な捕獲を推進し、捕獲頭数が増加

取組内容

○ サルの生息状況把握

県の専門家派遣事業を活用し、センサーカメラでの撮影や位置情報システムの導入により、サルの群れの数、規模、加害レベル、生息域を調査



《GPS首輪を装着したサル》

○ サルの行動範囲の見える化と共有

サルの群れごとの個体数、出没頻度の変遷や出没位置をMAPにして見える化し、住民学習会などで共有し、対策を検討

○ おじろ用心棒の導入検討

他県で成功事例のあるおじろ用心棒の導入について、被害のあった現場で住民と検証
→山林のすぐそばで木から侵入される被害農地が多数であったことから、導入を断念



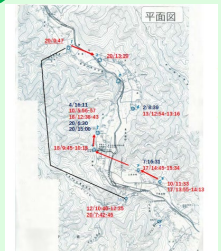
《集落点検の様子》

○ 鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、ICT大型捕獲檻を導入

群れの個体数が増加し、人を威嚇するなど追い払いのみでは対応が難しい状況にあると判断。群れの個体数削減と効率的な捕獲方法の検証のため導入

成果

- サルの群れの位置情報のMAP化により、地域のサル対策に係る意識を醸成



《MAP化した位置情報》

- ICT大型捕獲檻導入により、サルの捕獲頭数が増加



ICT大型捕獲檻導入後捕獲数増加

【佐野市のサル捕獲数の推移】

- 他集落への取組の波及
(ICT大型捕獲檻の移設及び増設)



【遠隔操作でゲートダウン】

ICT大型捕獲檻によるサルの被害防止対策(栃木県佐野市)

きっかけ・背景

- 人慣れしたサルが市内の里山を闊歩
- 住民からは、「サルは頭がいいので何をしてもダメ・・・」といった閉塞感の声

課題

- 環境整備や被害防止対策に取り組んだが、減少しない被害
- 上がらない捕獲効率
→実態把握と目標設定
→有効な対策の検討と導入
→対策の継続化
→地域の意識醸成

Step1 状況調査開始

(H30)

- 県による専門家派遣事業を活用し、集落点検による問題箇所を洗い出し
- 群れの数、生息域等を調査
- 住民学習会による調査結果の共有やサル対策の普及啓発

Step2 対策計画の策定

(H30)

- サルの群れごとに個体位置情報をMAPにし「見える化」
- 今後の被害対策計画を策定
→群れの頭数を減少させ、追い払いを容易にすることを目的に、ICT大型捕獲檻の導入を決定

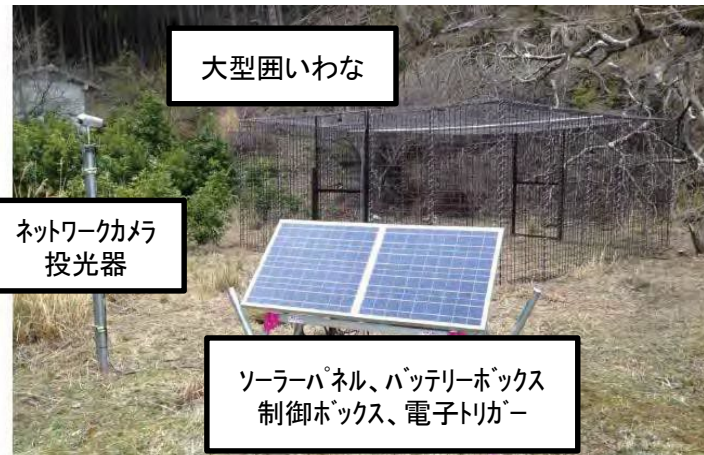
Step3 ICT大型捕獲檻の導入

(R元)

- 市、地元猟友会、住民が連携した捕獲を開始
→住民による群れの行動範囲の継続調査、檻付近のサルの様子の報告等の実施
- 鳥獣被害対策実施隊による地域へのサル対策指導、住民共同での追い払い等の実施



《サルが市内の里山を堂々と闊歩、やりたい放題》



取組の特色

- 知見のある専門家を招聘する等、対策の高度化への取組
対策の検討にあたっては、農林水産省で情報提供している他県の取組事例等を収集
- 地域住民の合意形成、被害対策の検討については、専門家の説明を通してねばり強く対応
- 小さな成果も「見える化」し、地域住民のモチベーションを向上

取組による成果・効果

- 県の専門家派遣事業を活用して、サルの群れの位置情報を「MAP化」し、具体的な対策を「見える化」することにより、地域におけるサル対策の意識が醸成
- 生息状況調査に基づいたICT大型捕獲檻の設置により、捕獲効率が向上し、捕獲頭数が増加
- 他集落における取組の波及（ICT大型捕獲檻の移設及び増設）